

セッション3 一般演題③

14. 当院における在宅血液透析導入期指導

○阿部奈津美 (アベナツミ)¹⁾、海老原 慧²⁾、若井 陽希³⁾⁴⁾、兵藤 透⁴⁾、吉田 一成³⁾⁴⁾
医療法人社団麗星会品川ガーデンクリニック 臨床工学部¹⁾、
医療法人社団麗星会品川ガーデンクリニック 看護部²⁾、
医療法人社団麗星会品川ガーデンクリニック 診療部³⁾、北里大学医学部 泌尿器科⁴⁾

当院では、在宅血液透析の開始にあたり、希望患者や介助者との面談を実施している。その際、可能な限り患者の適性を判断し、十分な説明と同意のもと、訓練を始め、利点ばかりではなく欠点についての理解も得られるように努めている。ここでの欠点とは、自身で治療の準備を行わなければならない、トラブル発生時の初期対応も自身で行わなければならないため、負担に感じる場合があること等である。

実際の訓練はマニュアルに沿って進め、トラブルが起こる前に自ら気づく能力を習得できるように心がけている。特に、多くの患者が不安に感じている自己穿刺については、慎重に段階を踏んで実施しており、医療スタッフが各患者に合わせて自己穿刺の方法について検討、指導することにより、適切な自己穿刺が可能となると考えている。

また、習得状況の評価や自己管理能力の評価を行い、装置の操作方法や医学的知識のみならず、医療スタッフとのコミュニケーション能力も養えるような指導を実施している。

安全な在宅血液透析を施行するためには、事前の訓練が最も重要であり、患者の背景や個性を考慮した指導が医療スタッフには求められ、訓練を指導するスタッフ教育が今後の課題である。